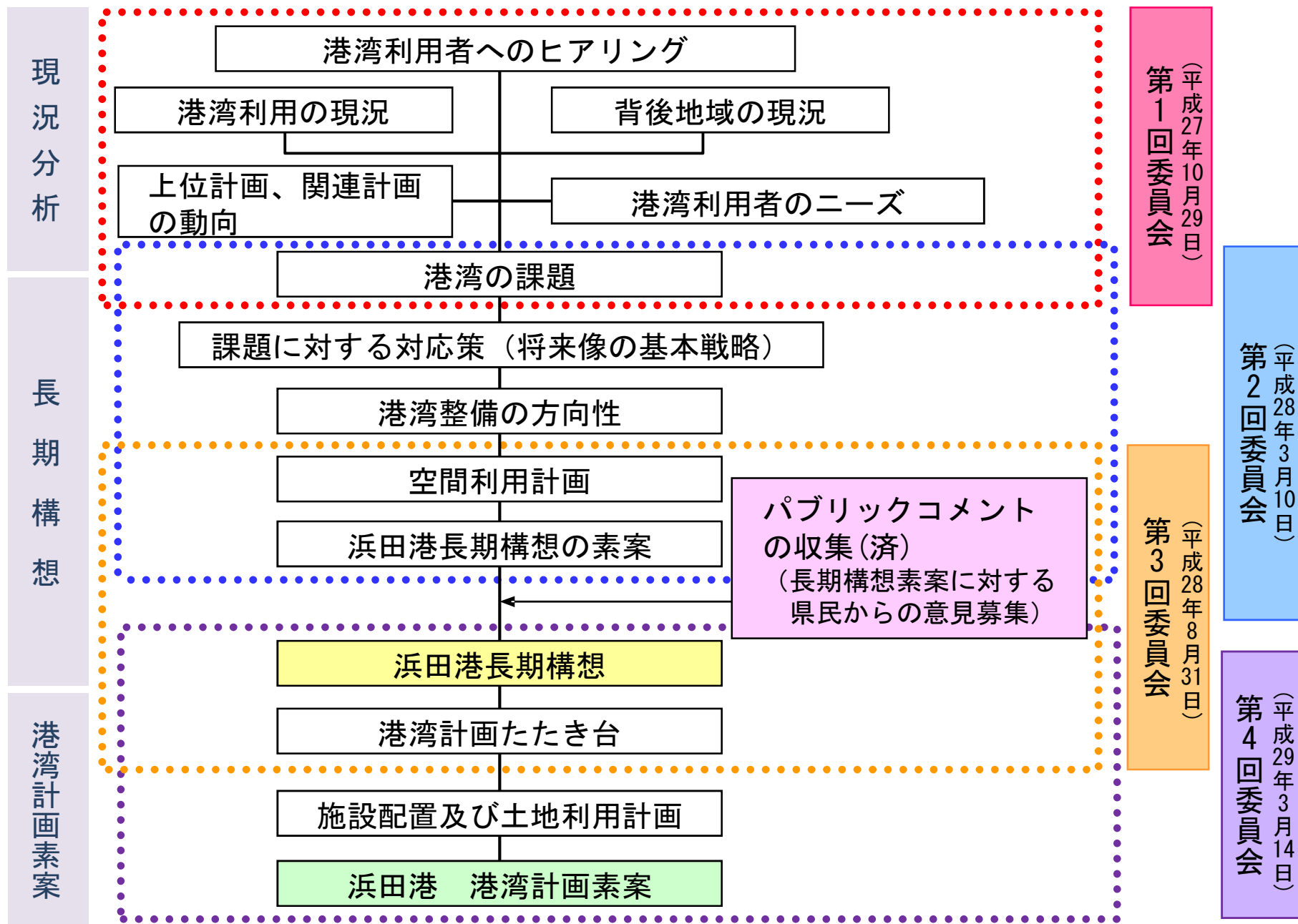


浜田港長期構想検討委員会 第4回委員会

平成29年3月14日



検討のフロー



浜田港長期構想

第3回幹事会での主な意見と対応

長期構想(素案)の内容に対する意見と対応

	意見	長期構想への反映
交流	客船寄港時のおもてなし機能としてCIQ設備が必要	P.43 戦略3-1-1「物流連続バースを活用した係留延長の確保とCIQ機能の充実」に修正
その他	高度衛生管理型の「荷捌き所」はあるが、高度衛生管理型の「岸壁」はない	P.9<水産業>3行目 「高度衛生管理型の岸壁や荷捌き所」を「高度衛生管理型の荷捌き所」に修正
	世界的には20～30年後のコンテナ船は4,000TEUクラスになると言われている	P.19 「図2-5 コンテナ船の大型化」に世界のコンテナ船の大型化に関する資料を追加

港湾計画改訂案(たたき台)に対する意見と対応

意見	対応
長浜地区の新規施設の検討に際しては、老朽化施設の維持管理、港内静穏度の確保の観点も含めて検討していただきたい	港湾計画改訂に向けた検討において考慮する
福井沖の北防波堤は、更に西側に延伸するのか	港内静穏度の検討結果を踏まえて、北防波堤の延伸を検討する

第3回委員会での主な意見と対応

長期構想(案)の内容に対する意見と対応

	意見	長期構想への反映
交流	<p>パブリックコメントの意見のうち「海洋教育」を意図したものの(下記)に対して、戦略4の施策として追加された「地域住民の活動の場づくり」は、パブリックコメントの意見に即した施策となっていない 「官民」に「学」を盛り込むことも検討の余地あり</p> <p>【パブリックコメントの意見】 子供の未来を想定した企画が重要(子供の郷育の視点) 1.海との親水の視点から「体験型の学習の場」として、長く活用されてこなかった水面整理場や熱田海岸の海水浴場の環境整備 2.B&G海洋センターの支援や特定非営利活動法人浜田ライフセービングクラブによる海洋学習や環境学習 3.漁業関係者による未来を担う子どもたちの水産業体験 4.海上保安部による巡視船の体験航海</p>	<p>P.44 戦略4-3の施策 「地域住民の活動の場づくり」を 「パブリックアクセスの推進」に修正</p> <p>戦略4-3-3の取組内容 「官民一体となった学習の場の創出」を 「官学民が一体となった海洋教育の場の創出」に修正</p>
その他	<p>P.38 図4-2及びP.50 図4-3、図4-4 空間利用計画(機能配置ゾーニング)及び各地区における施策展開の「交流・生活ゾーン」前面に「物流ゾーン」が配置され、海と分断されている</p>	<p>P.38 図4-2及びP.50 図4-3、図4-4 「交流・生活ゾーン」を「物流ゾーン」の前面に修正</p>
		<p>P.9 <林業> 広葉樹の活用等に関する記述を修正</p>

第4回幹事会での主な意見と対応

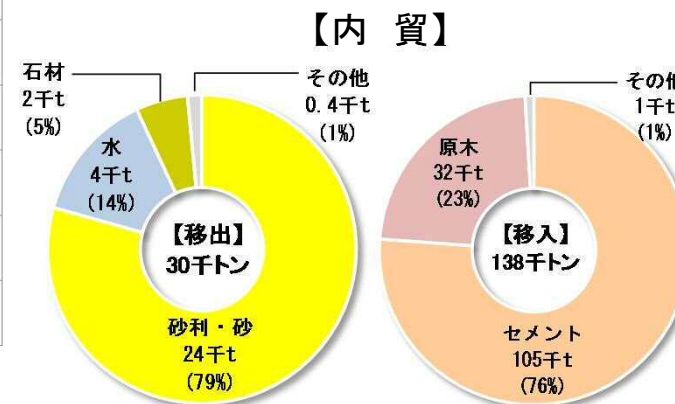
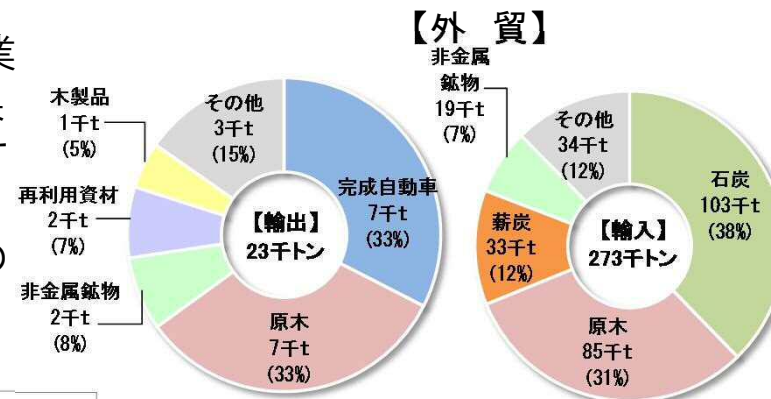
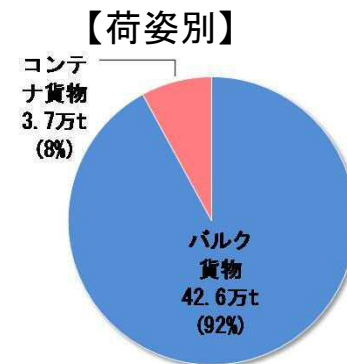
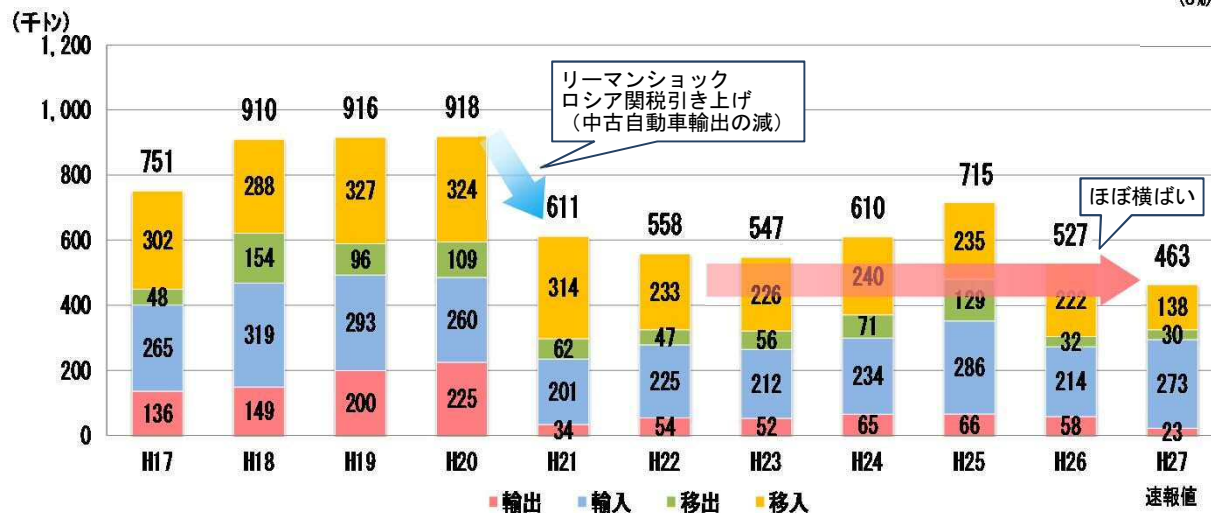
港湾計画(たたき台)の内容に対する意見と対応

意見	対応・回答
コンテナ貨物は平成26年より平成27年が減少しているにも関わらず、将来は大幅に増える推計となっているのは何故か。	【回答】 平成26年は中国・韓国向けの原木輸出(ヒノキ)が急増したため、平成27年が減少となった。将来の見通しは企業ヒアリングに基づき推計しているが、コンテナ貨物の取扱量の増加に向けては浜田港振興会による貿易支援や、浜田港拠点化形成研究会の集貨対策WGでの取組等、ソフト対策を進めている。
浜田港の航行安全については、もっと利用者の意見を聞いて議論することが必要である。	【回答】 航行安全検討委員会において、関係者の意見を踏まえて検討する。
港湾計画の目標年次(平成40年代前半)には、島根県内の高速道路がほぼ完成する。浜田港拠点化形成研究会の集貨対策WGでは、先を見越して益田以西(山口県方面)へのPRを行うと良い。	【回答】 いただいたご意見を浜田港拠点化形成研究会に取り込んでいく。

浜田港の現況

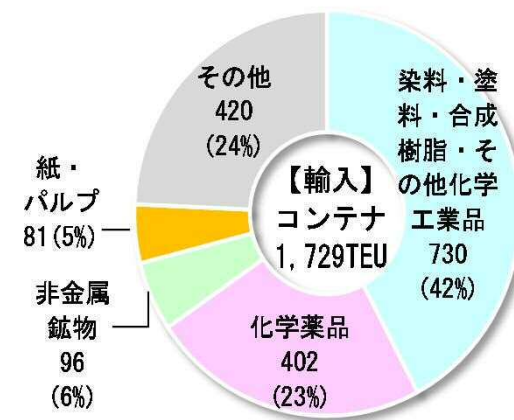
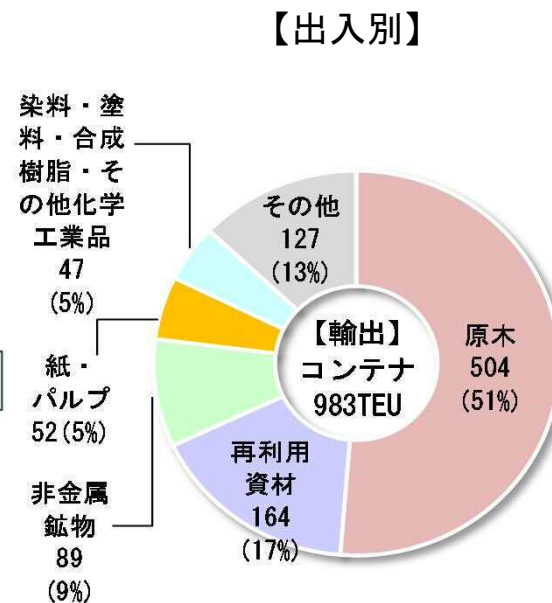
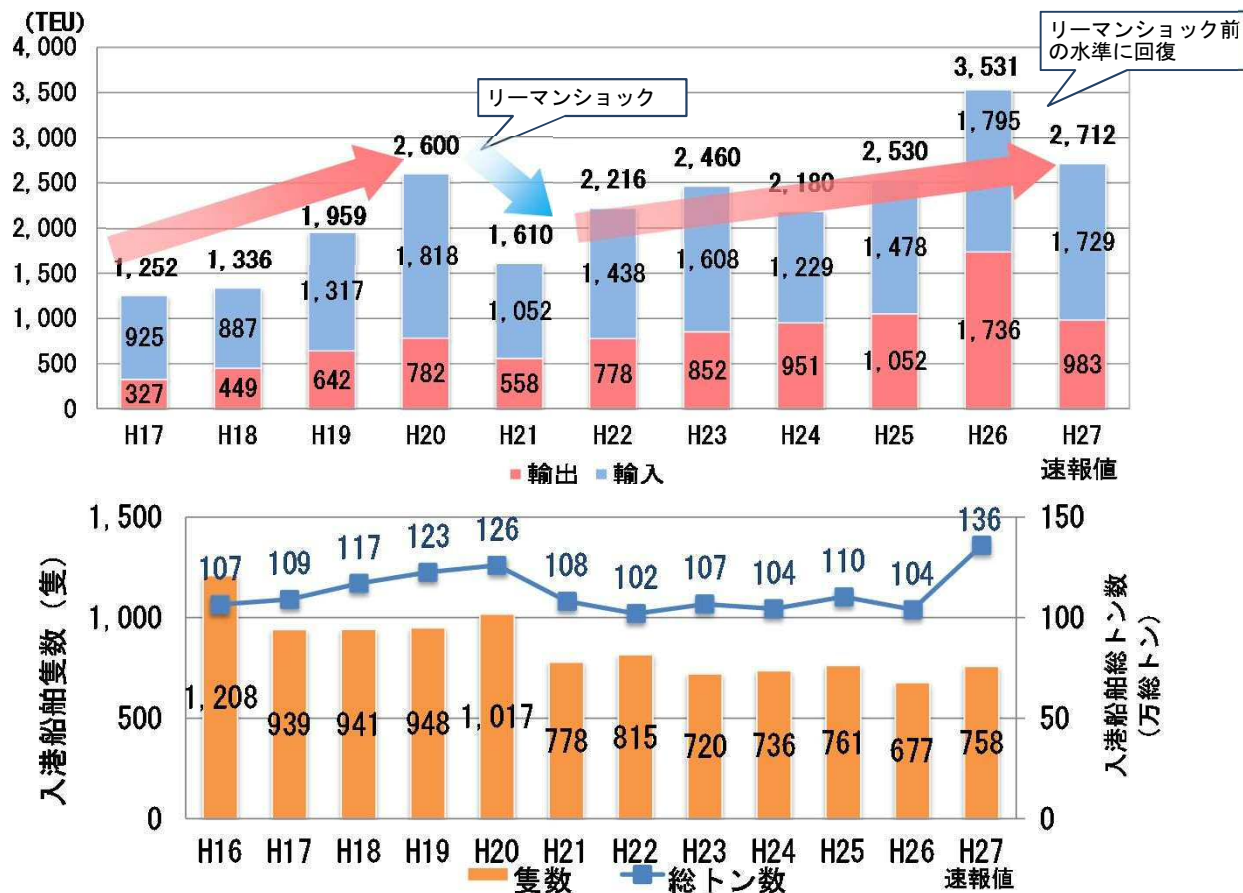
浜田港の利用状況(取扱貨物量)

- 平成20年までは対ロシアへの中古自動車輸出に牽引され増加傾向で推移
- ロシアの関税引き上げ及びリーマンショック等により中古自動車輸出が9割減、平成21年には大幅な減少
- その後平成25年まで緩やかな回復傾向
- 平成26年は世界的な原油安に起因する急激なルーブル安のあおりで再び中古車輸出が減少、円安による木材の輸入減などの影響で減少
- 平成27年には近傍の工業団地にバイオマス発電所が営業を開始、その燃料であるPKS（Palm Kernel Shellパーム果実の種から核油を搾油した後の殻）の輸入取扱を開始する等、新たな需要も発生
- 長浜地区の石油油槽所の撤退やロシア向け中古自動車の更なる減少により、リーマンショック以降ほぼ横ばい



浜田港の利用状況(コンテナ貨物等)

- コンテナ貨物取扱個数(実入)は、平成20年のリーマンショックを契機に落ち込みを見せたが、国産原木の海外での需要増や他港からのシフト等の影響を受けて回復傾向
- 平成27年にはリーマンショック前の水準に回復
- 浜田港の1隻あたりの総トン数は、年々増加傾向にあり、船舶の大型化が進行
- クルーズ船・イベント船(自衛艦など)は、年間1~6隻程度寄港



資料: 港湾統計(平成27年速報値)

取扱貨物量の見通し

浜田港港湾計画素案

浜田港港湾計画の基本方針

■既定計画-平成9年改訂-（目標年次:平成18年）

- 1) 流通コストの軽減に資するため、外貿物流機能の充実を図る
- 2) 船舶の入出港時の航行の安全や荷役向上させるため、静穏な水域の確保を図る
- 3) 港湾と背後地域との連絡を強化するとともに、港湾内の円滑な交通を確保するため、臨港交通体系の充実を図る
- 4) 港湾における快適な環境を創造するため、老朽化・陳腐化した港湾施設の更新を図るとともに、魅力的な港湾空間の創出を図る
- 5) 多様な機能が調和よく導入され、相互に連携した質の高い空間を形成するため、港湾空間を以下のように利用する
 - ①長浜地区東部及び福井地区:物流関連ゾーン
 - ②鰐石地区:生産ゾーン
 - ③長浜地区北部:エネルギー関連ゾーン
 - ④長浜地区西部及び福井地区東部:緑地レクリエーションゾーン
 - ⑤長浜地区南部及び福井地区南部:船だまり関連ゾーン



■今回計画(案)（目標年次:平成40年代前半）

地域を支え、発展著しいアジアとともに成長する浜田港

短中期:県西部の魅力を最大限に引き出す浜田港

長期:発展著しいアジアとともに成長する浜田港

物流:県西部を中心とした背後圏域の産業を支え、働く場の礎となる浜田港

戦略1 福井地区の沖合展開による物流機能の強化

戦略2 新規需要の受け皿としての長浜地区の活用

交流・生活:自然や伝統文化に彩られた県西部に人を呼び込み、賑わいを創出する浜田港

戦略3 漁港との連携による大型客船の寄港促進

戦略4 港湾活動と周辺環境の調和による快適な生活環境の確保

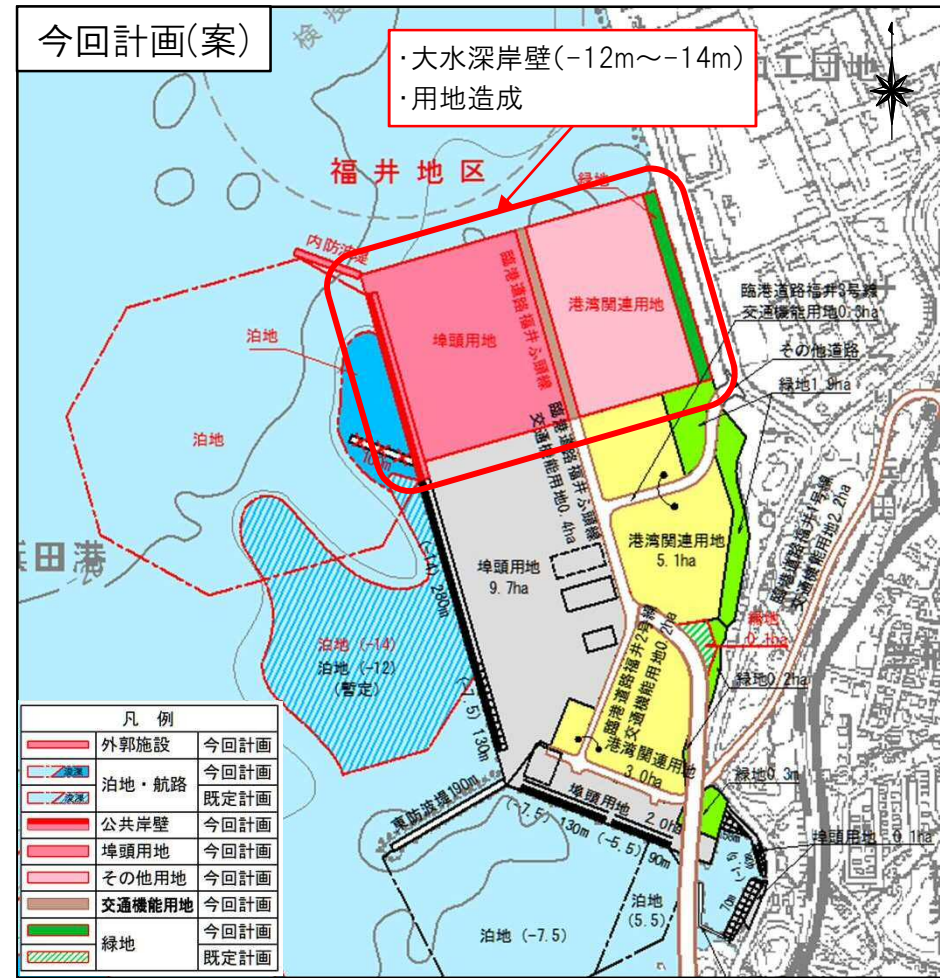
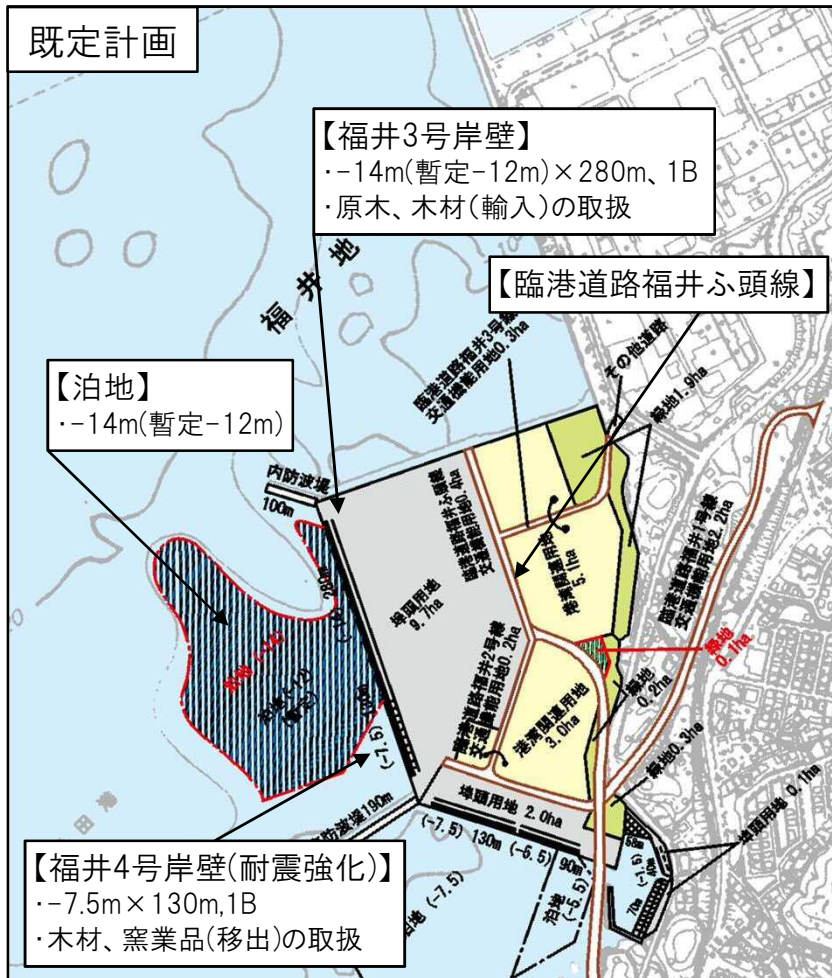
防災:最悪の事態を避け、企業活動の継続・安心な暮らしを維持する浜田港

戦略5 港の防災機能の向上

戦略6 港内環境改善による災害時におけるリスク回避

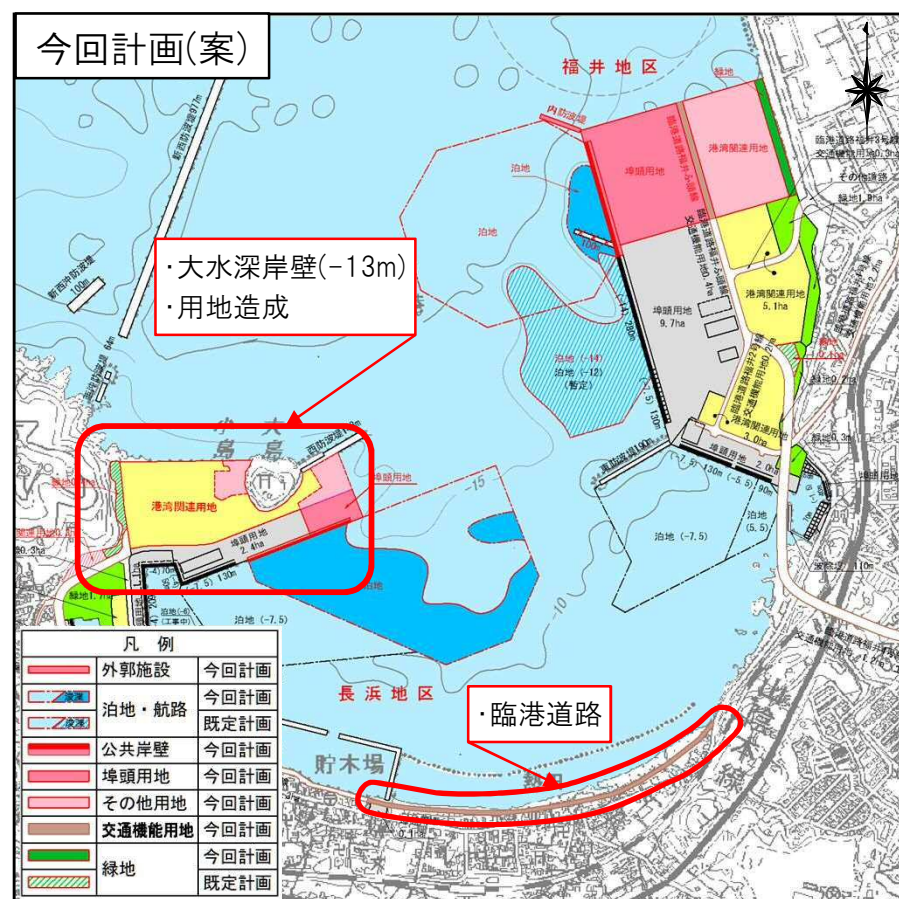
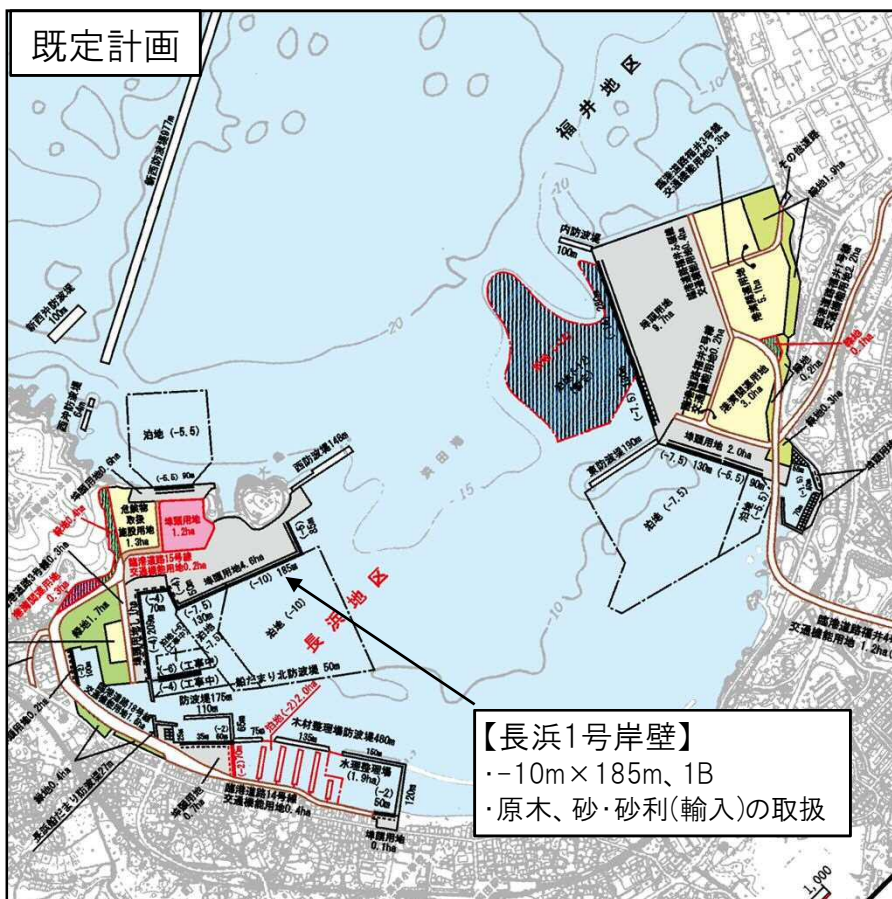
戦略1：福井地区の沖合展開による物流機能の強化

- 福井地区においては、バルク輸送船舶の大型化と一括大量調達に対応した物流機能の強化が必要
- 今回の計画改訂においては、関係企業へのヒアリング結果に基づき、大型貨物船を対象船型に設定
- 上記に対応するため、大水深の公共岸壁、土地造成による用地確保を計画



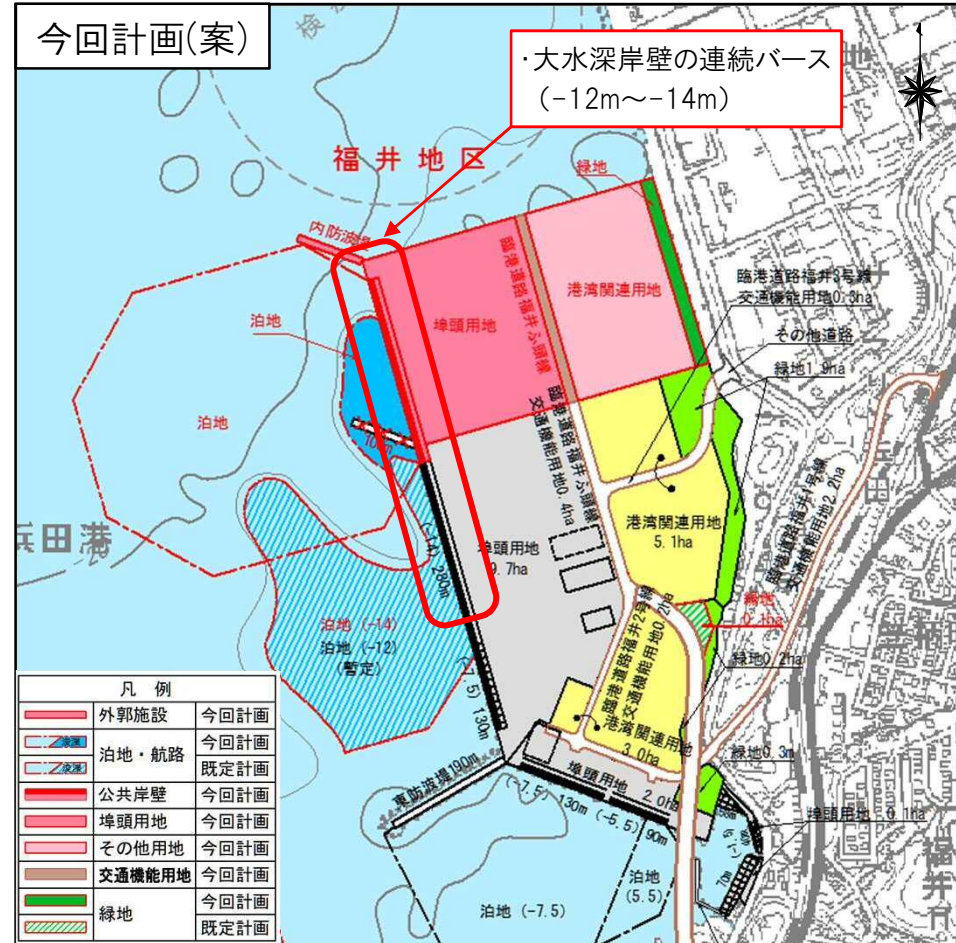
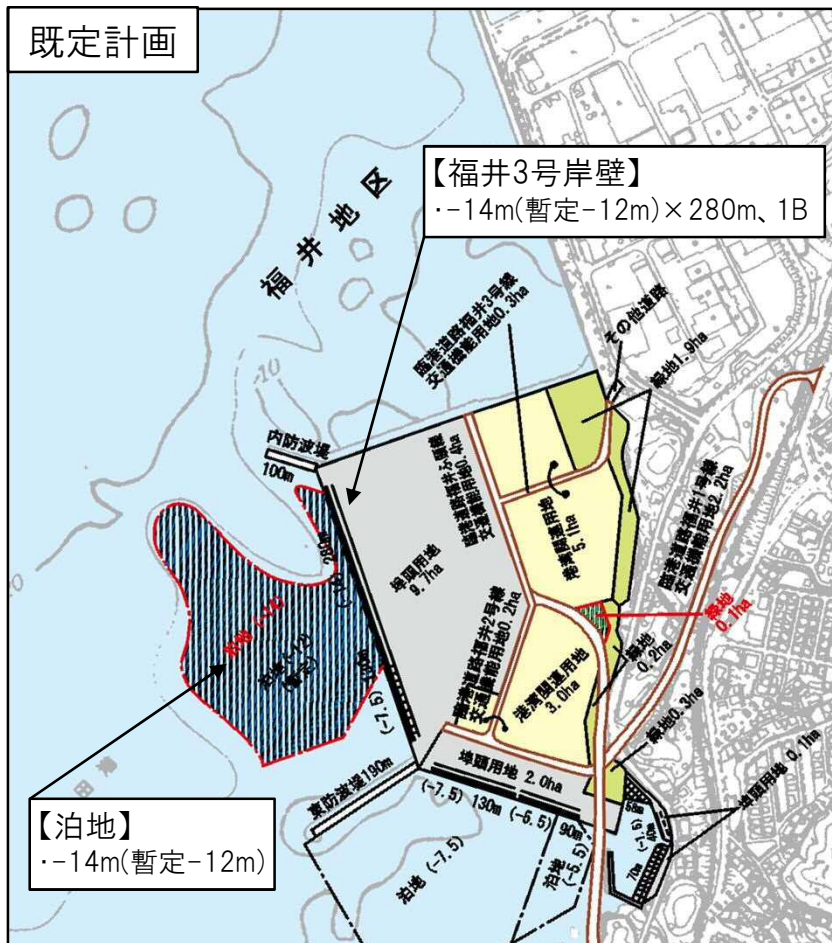
戦略2:新規需要の受け皿としての長浜地区の活用(エネルギー関連)

- 長浜地区においては、新規需要やエネルギー関連貨物の取扱拠点の形成を推進
- 今回の計画改訂においては、関係企業へのヒアリング結果に基づき、大型貨物船を対象船型に設定
- 新規需要やエネルギー関連貨物の需要に対応するため、高速道路へのアクセス機能の向上が必要
- 上記に対応するため、既設公共岸壁の改良(大水深岸壁)、土地造成による用地の確保、福井地区と長浜地区間を接続する臨港道路を計画



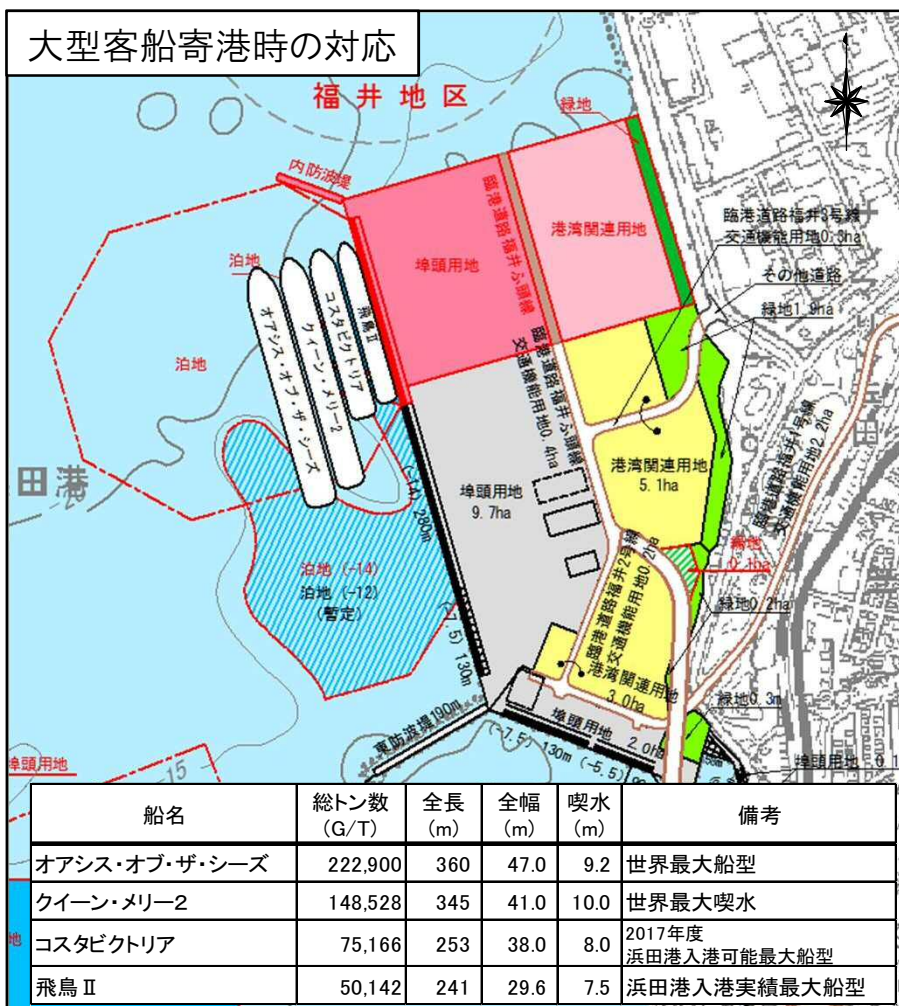
戦略3:大型客船の寄港促進(福井地区)

- 福井地区においては、大型客船の寄港促進のため、受入環境の充実が必要
- 上記に対応するため、大型客船寄港時には新規公共岸壁と既設公共岸壁を連続バースとして係留延長を確保し、公共岸壁背後の埠頭用地をCIQ機能用地等として活用
- 関係機関が連携した地元オプショナルツアーの立案
- 船内外での観光消費拡大



大型客船の受け入れ環境の充実(福井地区)

- 「みなとオアシス」や「浜田港拠点化形成研究会」を活用したみなとまちづくりの推進
- 石見神楽等による歓迎イベントの開催
- 背後圏域への観光誘客(世界遺産、文化遺産)



みなとオアシス浜田
(H28.2.27登録)



大型客船寄港時のおもてなし、周辺観光名所

～おもてなし (hospitality) ～



平成28年5月2日
にっぽん丸寄港

～観光名所 (Sightseeing spot) ～

さぎまい
鷺舞
(津和野)



石見神楽



石見銀山



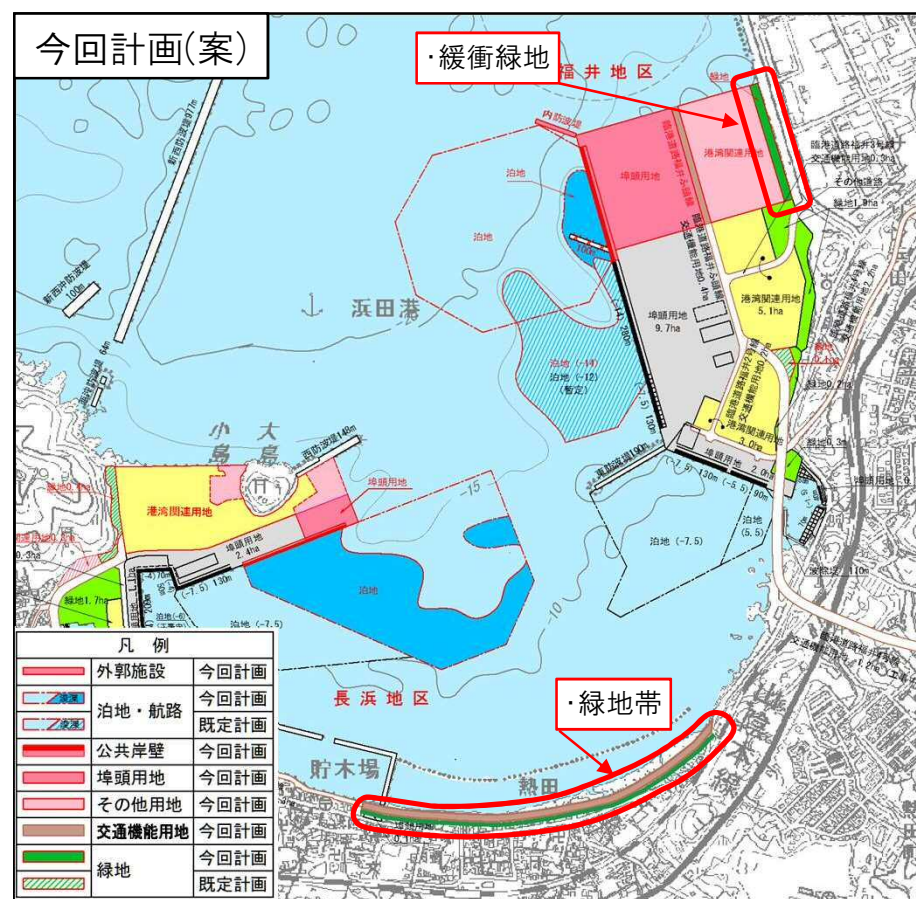
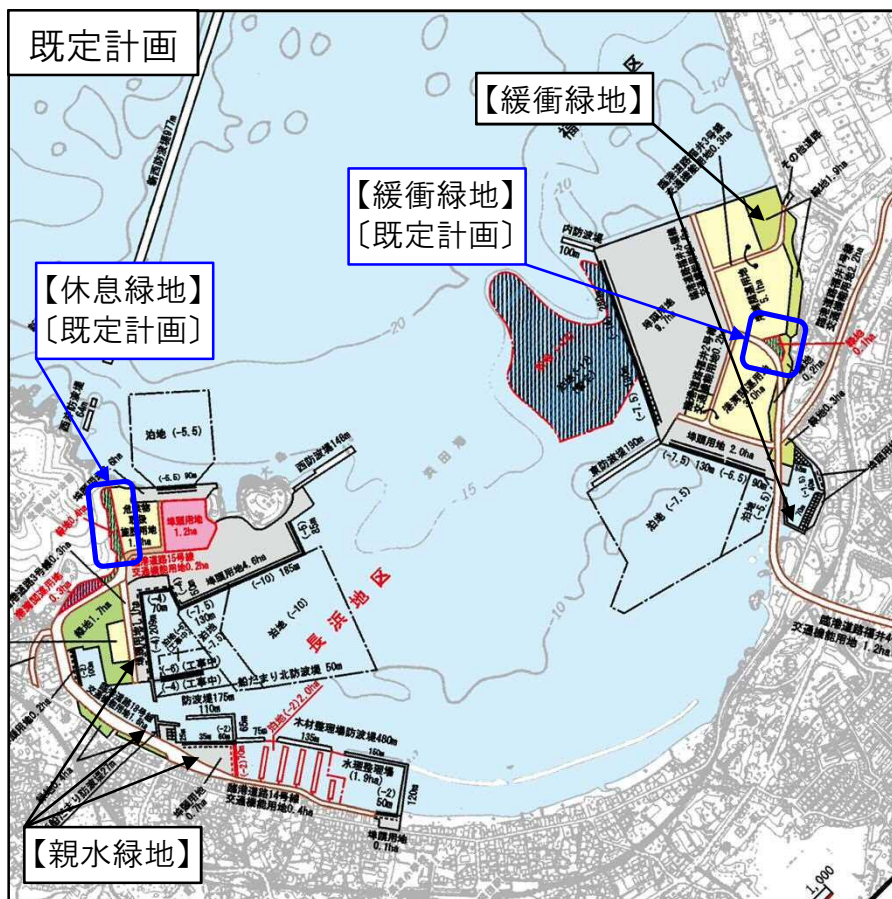
太鼓谷稲荷神社
(津和野)



- 平成29年 寄港予定
- 6/29 飛鳥Ⅱ
 - 8/26 飛鳥Ⅱ
 - 9/25 ばしふいっくびーなす

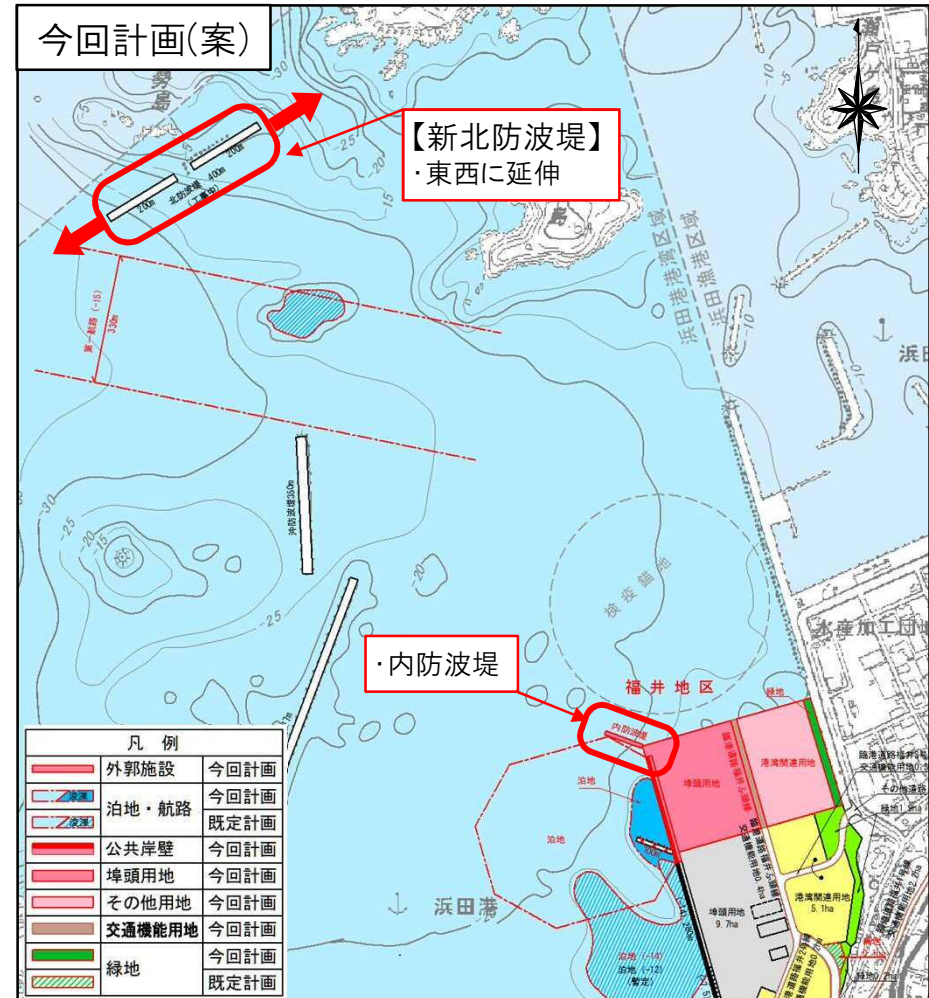
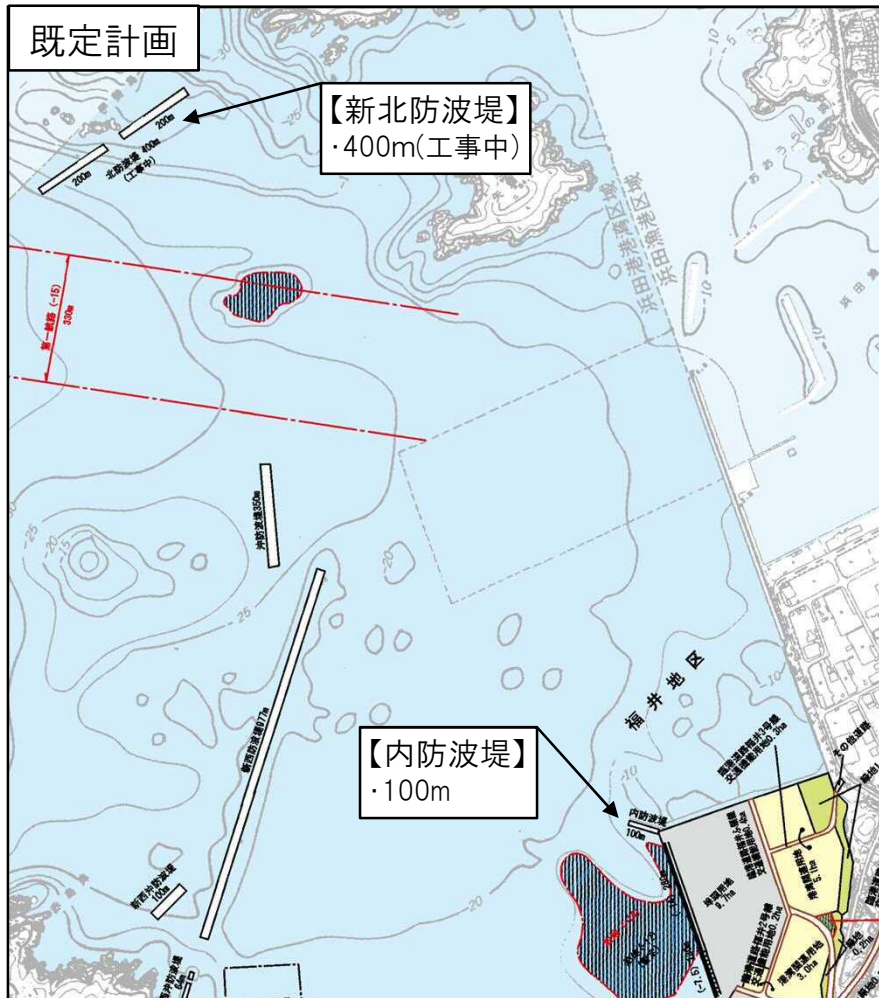
戦略4：港湾活動と周辺環境の調和による快適な生活環境の確保

- 福井地区においては、新規公共岸壁及び土地造成による物流機能の強化に伴い、港湾活動による環境への影響の低減・緩和を図る対策が必要
- 長浜地区と福井地区を接続する臨港道路の計画に伴い、港湾関連交通の適正分離が必要
- 上記に対応するため、福井地区の緩衝緑地、福井地区と長浜地区間を接続する臨港道路に緑地帯を計画



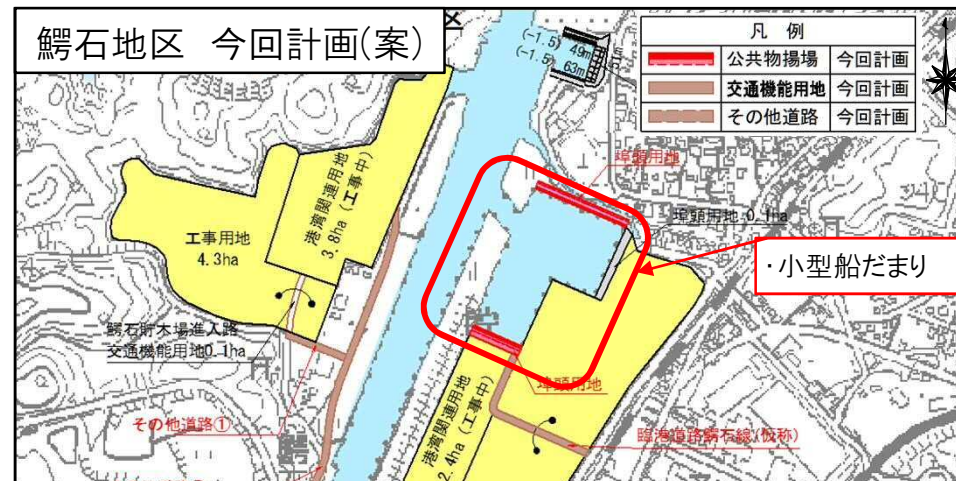
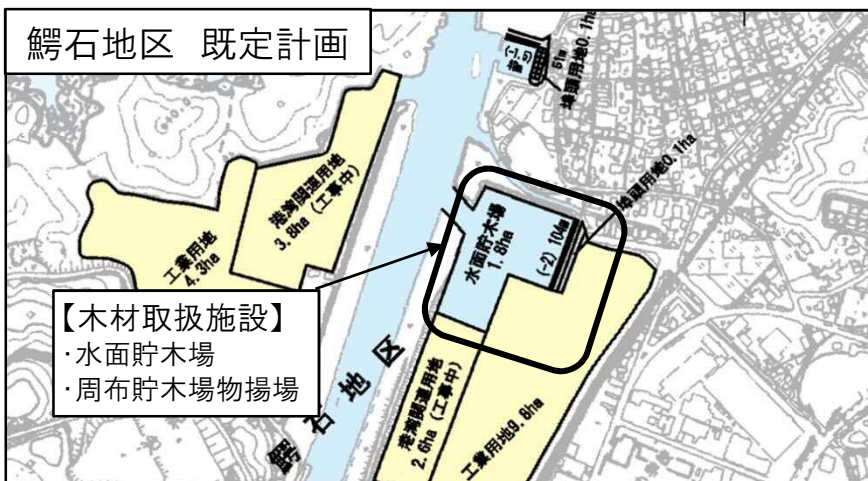
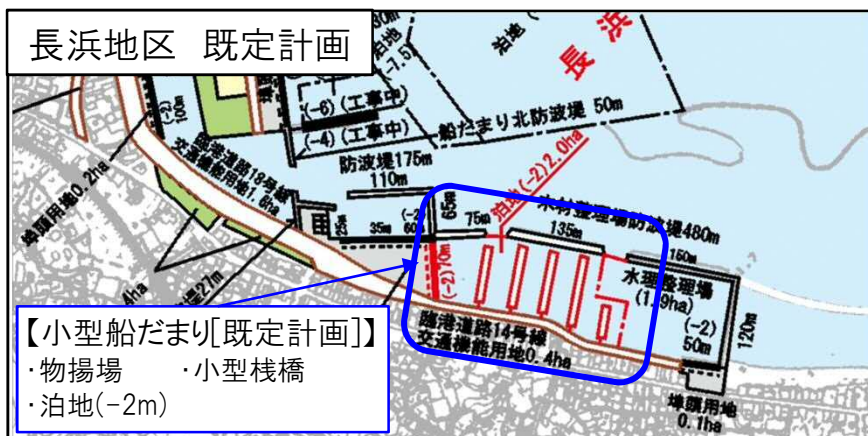
戦略6: 港内静穏度の確保(福井地区)

- 福井地区においては、新規公共岸壁及び土地造成に伴い、港内静穏度の確保が必要
- 上記に対応するため、新北防波堤の延伸及び内防波堤を計画

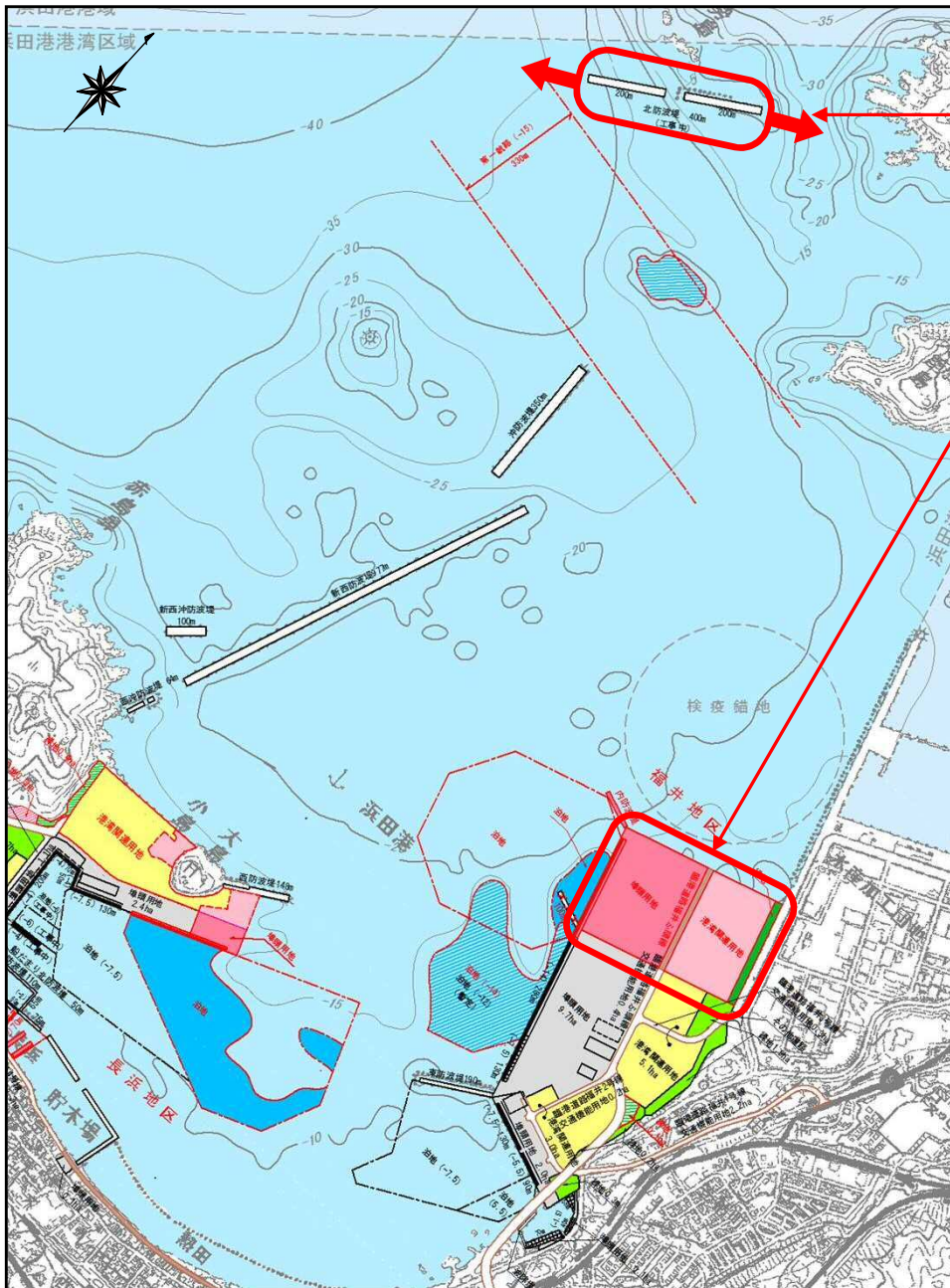


戦略6: 小型船の適正管理の推進(長浜地区・鰐石地区)

- 長浜地区において、既定計画にある小型船だまりの計画を見直し
- 鰐石地区においては、周布川河口に係留されているプレジャーボートや、老朽化した日脚物揚場に係留されている漁船を適正に管理
- 既定計画では長浜地区に小型船だまりを計画していたが、周辺漁港においてプレジャーボート対策について検討が進んでいることを考慮し、今回計画では収容計画を見直し、長浜地区及び鰐石地区にそれぞれ小型船だまりを計画



港湾計画図(素案) 福井地区



【防波堤】

【大水深岸壁の連続バース(-12m~-14m)】
【用地造成】



港湾計画図(素案) 長浜地区

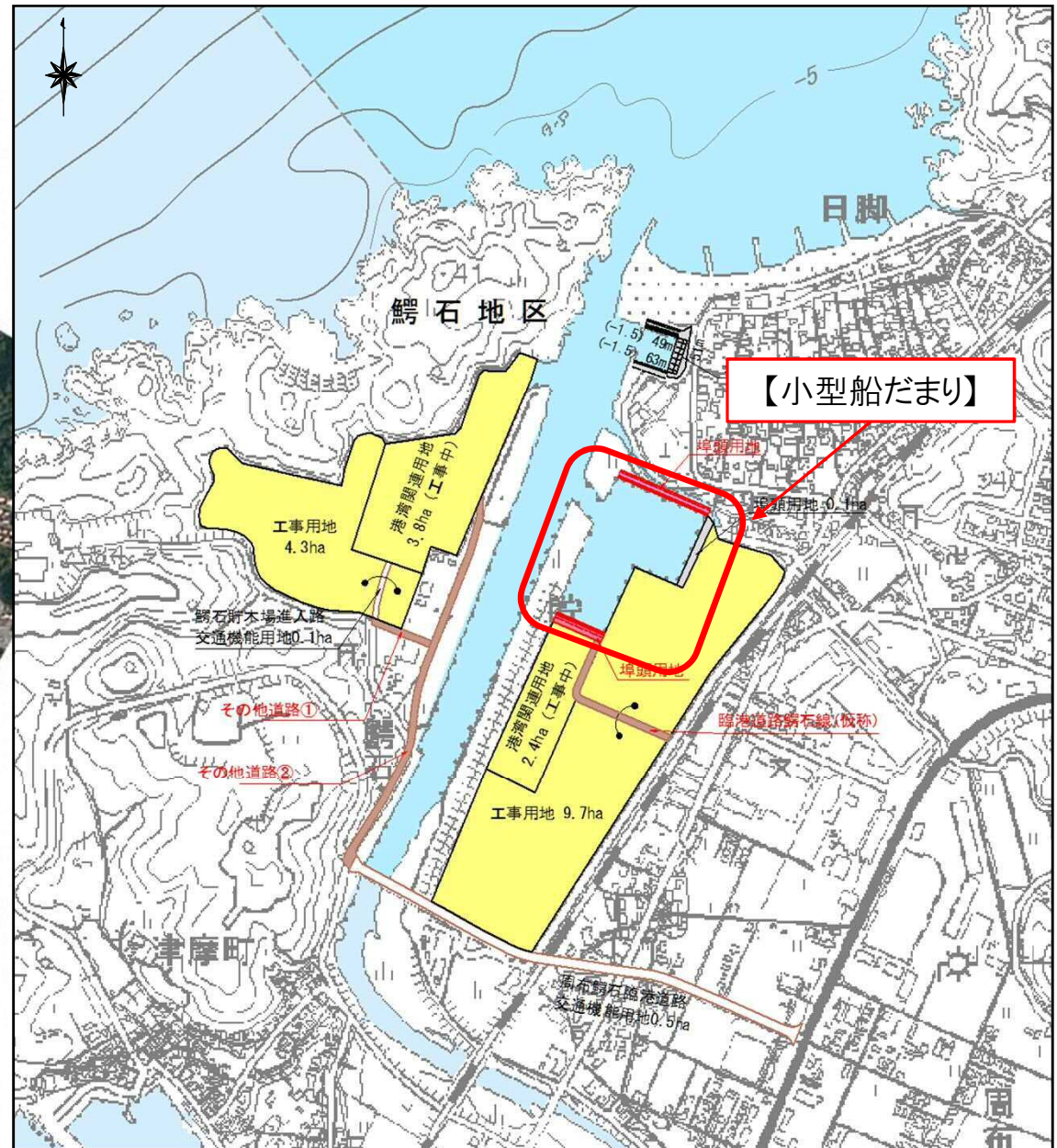


出典：島根県

港湾計画図(素案) 鰐石地区



出典: 島根県



浜田港トピックス

浜田港拠点化形成研究会ワーキンググループの取り組み

集貨対策ワーキンググループ

【第1回】平成28年7月 1日開催

【第2回】平成29年2月14日開催

(取組状況)

- ・構成団体から県外を含めた企業情報を収集し、有望企業をリストアップ
- ・石見全域に加え、広域的な企業に対して浜田港振興会が中心となり関係市町等連携したポートセールスを実施
- ・浜田港振興会等による浜田港のPR活動
(ポートセミナー、商談会の開催)

クルーズ客船誘致対策ワーキンググループ

【第1回】平成28年7月15日開催

【第2回】平成29年2月13日開催

(取組状況)

- ・クルーズ客船誘致活動業務の外部委託
- ・クルーズセミナーへの参加による情報収集
- ・ポートセールス用パンフレットの作成
- ・オプションツアーの造成、提案
- ・旅行会社等への訪問

浜田港拠点化形成研究会の今後の活動

活動方針	H28年度	H29～H33年度	H34年度～
集貨対策WG <ul style="list-style-type: none"> • 広域的なポートセールスの展開 • 新規貨物の掘起し • 国内他港との連携 		目標値の設定	5年を1サイクルとした目標値設定
クルーズ客船誘致対策WG <ul style="list-style-type: none"> • 国内・海外クルーズ客船の誘致と継続的な寄港 • クルーズ客船受入に向けた環境整備 • 国内他港との連携 		目標値の設定	5年を1サイクルとした目標値設定

平成29年度	4～6月	7～9月	10月～12月	1～3月
研究会				●3月頃 研究会開催 H29まとめ H30活動方針決定
集貨対策WG		●7～8月頃 第1回会議 ポートセールス状況報告 新規貨物掘起し検討		●2月頃 第2回会議 状況報告 H30年度活動方針
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用可能企業の情報収集 ・ 関係者が連携した利用企業等へのポートセールス ・ 新規貨物掘り起こしの検討 			
クルーズ客船誘致対策WG	・ 8/29 飛鳥Ⅱ寄港	●7～8月頃 第1回会議 営業活動等状況報告 飛鳥Ⅱ寄港の状況 ・ 8/26 飛鳥Ⅱ寄港		●2月頃 第2回会議 状況報告 H30年度活動方針
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業活動推進、クルーズセミナー等での情報収集 ・ オプションルツアー造成（地元協議） ・ おもてなしの検証・検討など 			

その他トピックス(1)

浜田港運株式会社 浜田港福井地区に倉庫を新設

- ・浜田港運(株)(浜田市長浜町)が、浜田港福井地区に、床面積約2千㎡の倉庫を新設
- ・増加する内貿貨物を迅速・安全に一時保管するため、福井埠頭の立ち入りを制限するフェンスで囲ったソーラス区域内に建設

H28.10.25山陰経済ウィークリー掲載

浜田沖 石油・天然ガス調査結果

- ・平成26～28年度、経済産業省資源エネルギー庁が「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」に基づき、島根県及び山口県沖合における石油・天然ガスの存在の確認を目的とした掘削調査を実施
- ・調査を請け負う国際石油開発帝石(東京都港区)が、海底の試掘で天然ガスに含まれる成分が検出され、海底にガスが存在する可能性が高いとする調査結果を発表、2016年度中には商業化の可否が決まる
- ・石油開発企業による探鉱につながる事等が期待される

H28.10.29山陰中央新報、H28.11.7港湾空港タイムス掲載

浜田・三隅道路全通 物流や代替道効果に期待

- ・平成28年12月18日、山陰自動車道 浜田・三隅道路の西村IC～石見三隅IC間(6.4km)が開通し、全長14.5kmで無料区間の浜田・三隅道路が全通
- ・事業者や地域住民たちは、物流効率の向上や緊急搬送の迅速化、国道9号の代替道路としての役割などに期待
- ・全通により、中国横断自動車道広島浜田線(浜田自動車道)を經由して広島市と浜田市三隅町が直結、これに伴い広島方面への情報発信を強化し県外客の増加を図る
- ・山口県との県境区間も含めた県内の山陰自動車道の早期全線開通を望む声も上がっている

H28.12.19山陰中央新報掲載

その他トピックス(2)

浜田港 韓国コンテナ船 大型化

- ・韓国の船会社「南星海運」(ソウル市)が、浜田港と韓国・釜山港を結ぶ国際定期コンテナ船の大型化を計画(時期は近年中)、山陰両県の港湾で最大クラスとなる1,000本(20フィート換算)を積み込める船舶を投入する予定
- ・南星海運は既に現行の342本積の船舶を2017年中に700本対応に切り替える計画を示しているが、同社所有の700本積コンテナ船は完成から20年が近づいており、今後は1,000本積コンテナ船を主力に据える方針を決めた
- ・同港に入る船舶の積載能力は、現行の約3倍になる
- ・大型化により波の影響を受けにくくなるため、安定運航につながるほか、コンテナの積み残しの減少など、荷主の利便性向上が期待される

H29.1.12山陰中央新報掲載

浜田港 2018年12月 ガントリークレーン利用開始

- ・浜田港に導入を計画しているガントリークレーンは、2018年12月から利用を開始する
- ・軌道上を移動するガントリークレーン(51トンつり)は、大型のコンテナ船に対応でき、現行の多目的クレーン(36.5トンつり)に比べ、荷役作業スピードが2倍になる
- ・基礎地盤が軟弱で、岸壁の改良なども必要であることが判明、調査・計画設計に9ヶ月を要する

H29.1.12中国新聞掲載

その他トピックス(3)

日本製紙 溶解パルプ事業強化 江津事業所に投資

- ・日本製紙は、化学繊維などの原料となる溶解パルプ事業を強化するため、2017年度までに国内生産拠点(江津市、京都府福知山市)の設備増強に計105億円を集中投資する方針を明らかにした
- ・2017年度までの中期経営計画では、ケミカル事業本部 江津事業所が拠点となる溶解パルプ事業に55億円を投資し、高付加価値製品の生産を増やす計画が示されている

H27.5.27山陰中央新報掲載

日本製紙 江津に新素材量産設備を新設

- ・日本製紙(東京都)は、植物由来の新素材「セルロースナノファイバー(CNF)」の量産設備を江津事業所(江津市江津町)に設けると発表、敷地内に建屋を新設し、専用の製造ラインを設置する
- ・投資額は約11億円、2017年9月の稼働開始を予定
- ・国内の食品、化粧品メーカー向けに、当初は年間30トンを生産し、将来的には100トンまで増やす

H28.8.19山陰中央新報掲載

木質バイオマス発電所 江津に完成(国内最大級)

- ・豊田通商の子会社、エネ・ビジョン(名古屋市)が、島根県江津市に木質バイオマス発電所を建設
- ・出力1万2700キロワットで年間発電量は一般家庭2万3千世帯分に相当、木質バイオマス発電所としては国内最大級
- ・木質バイオマス発電は、放置された間伐材などをチップ化して燃料に用いる発電で、未利用材を活用できるため環境保全にも有効
- ・年間約8万3千トンの県内産木材チップを燃料として使う
- ・エネ・ビジョンは愛媛県松山市でも同規模の木質バイオマス発電所を建設中

H27.6.8産経新聞掲載

その他トピックス(4)

浜田管内輸出入総額 2年ぶり増の348億円

- ・神戸税関浜田支所管内(島根県西部)の2016年貿易額(速報値)は、輸出入総額が前年比3.2%増の348億9,900万円で2年ぶりに増加
- ・輸出額は251.9%増の47億2,600万円、浜田市沖の日本海で2016年6月から10月にかけて行われた石油・天然ガスの試掘に伴う掘削機の運搬船などの船舶類31億円8,900万円分を輸出に計上
- ・輸入額は7.1%減の301億7,300万円、原材料を輸入する製造業者などが国産材に切り替えたことなどで、カナダからの木材が44.4%減の9億2,300万円、タイからのポリエチレンが38.4%減の4億4,800万円となったのが響いた

H29.2.4山陰中央新報掲載

石炭灰活用の多孔質素材 三隅発電所で製造開始

- ・中国電力は、石炭火力発電で生じる石炭灰を利用した多孔質素材「Hiビーズ」の製造を、三隅発電所内に新設した工場で開始した
- ・同発電所では年間約25万トンの石炭灰が発生、当面は5万トンを活用し、Hiビーズを約6万m³製造する
- ・Hiビーズは表面に微細な穴が無数にある多孔質構造のため、水中の富栄養化を招くリンや窒素、毒性のある硫化水素を吸着する機能があるとされており、水質改善効果がある

H28.11.12山陰中央新報掲載

浜田港マラソン 3月18日 200チーム募集

- ・2017年3月18日、浜田漁港周辺をチームで走る「山陰浜田港マリン大橋リレーマラソン」が開かれる
- ・2016年2月、初めて開いた大会には県外を含む145チーム、1,124人が参加、発着点のしまねお魚センター前には飲食の屋台が並び、多くの人でにぎわった
- ・2回目となる今回は、企業対抗、男女混合、シニア、仮装などの8部門で計200チームを募集

H28.11.8中国新聞掲載